

第28回 暴力追放会津若松市民大会

暴力のない安全で安心して暮らすことのできる会津若松市の実現は、市民共通の願いです。しかしながら、全国的に暴力団関係者による凶悪な犯罪はもちろんのこと、住民生活や経済活動に巧妙に介入するなどの悪質な犯罪等、私たちに不安を与える事件が依然として発生しており、暴力団の脅威が無くなることはありません！
ぜひこの機会に、私たちの身近な問題として考えてみませんか？

【と き】 2025年 **2月2日（日）**

午後1時30分～

【ところ】 会津若松市文化センター

（会津若松市城東町14番52号 ☎0242-26-6661）

※駐車場は、鶴ヶ城体育館東側、風雅堂をご利用ください。

※当日は、駐車場の混雑が予想されます。車の乗り合わせにご協力をお願いいたします。

【内 容】 第1部 暴力追放活動功労者表彰・大会宣言

入場
無料

事前申込み必要！



第2部 特別講演

防犯コンサルタント/元警視庁公安部捜査官

まつまる としひこ
松丸 俊彦 氏

【経歴】

警視庁に23年勤務。
2002年日韓共催W杯サッカー大会においてロンドン警視庁の特別捜査官と共にフリーガン対策に従事。その後、3年間に南アフリカ日本国大使館に警備対策官兼領事として勤務。
2010年南アフリカW杯サッカー大会における邦人援護計画を作成。

また、当時在南アフリカ日本国大使館が管轄した、スワジランド、ボツワナ、ナミビア、レソトの国々の邦人保護にも当たる。警視庁在籍中、主に防諜対策(カウンターインテリジェンス)及び在京大使館のセキュリティアドバイザーを担当。

現在は、セキュリティコンサルタント、防犯コンサルタントとしてクライアントに対するコンサルティング、研修、訓練、マニュアル改訂などを実施しており、コメンテーターとしても各種メディアにおいて情報発信をしている。

【主 催】 暴力追放会津若松市民会議

【共 催】 会津若松警察署・会津若松市

【問い合わせ】 会津若松市 危機管理課 ☎0242-39-1227

不当要求対応 1 2 則

問題解決は、毅然とした対応と早期相談！！
迷わず・恐れず警察へご相談を！！

1 来訪者のチェックと連絡

受付係員又は窓口員は、来訪者の氏名等の確認と用件及び人数を把握して、対応責任者に報告し、応接室等に案内する。



2 相手の確認と用件の確認

落ち着いた、相手の住所、氏名、所属団体名、電話番号を確認し、用件の確認をすること。代理人の場合は、委任状の確認を忘れないように。



3 対応場所の選定

素早く助けを求めることができ、精神的に余裕をもって対応できる場所（自社の応接室）等の管理権の及ぶ場所を選ぶ。暴力団等の指定する場所や、組事務所には絶対に向かないこと。やむをえず出向かざるをえない時は、警察に事前・事後連絡をする。



4 対応の人数

相手より優位に立つための手段として、可能な限り相手より多い人数で対応し、役割分担を決めておく。



5 対応時間

可能な限り短くすること。最初の段階で「何時までならお話を伺います」などと告げて対応時間を明確に示すこと。対応時間が過ぎても退去しない場合は、警察に不退去罪での被害届を出す旨を告げて警察へ連絡する。



6 言動に注意する

暴力団員は、巧みに論争に持ち込み、応対者の失言を誘い、又は言葉尻をとらえて厳しく糾弾してきます。「申し訳ありません」、「検討します」、「考えてみます」などは禁物です。



7 書類の作成・署名・押印

暴力団は「一筆書けば許してやる」などと詫言や念書等を書かせたがりますが、後日金品要求の材料などに悪用します。また、暴力団員等が社会運動に名を借りて署名を集めることがありますので署名や押印は禁物です。



8 トップは対応させない

いきなりトップ等の決裁権を持った者が対応すると、即答を迫られますし、次回以降からの交渉で「前は社長が会った。お前ではだめだ。社長を出せ。社長が会わない理由を言え」などと喰ってかかられます。



9 即答や約束はしない

暴力団員の対応は、組織的に実施することが大切です。相手の要求に即答や約束はしないことです。暴力団員は、企業の方針の固まらない間が勝負の分かれ目と考えて執拗に、その場で回答を求めます。



10 湯茶の接待をしない

湯茶を出すことは、暴力団員が居座り続けることを容認したことになるかねません。また、湯飲み茶碗等を投げつけるなど、脅しの道具に使用されることがあります。歓迎するお客さんではありませんので、接待は不要です。



11 対応内容の記録化

電話や面談の対応内容は、犯罪検挙や行政処分、民事訴訟の証拠として必要です。相手に明確に告げて、メモや録音、ビデオ撮影をする。



12 機を失せず警察に通報

不要なトラブルを避け、受傷事故を防止するため、平素の警察、暴追センターとの連携が早期解決につながります。

